

教育委員会事務局

令和元年度重点目標

- 1 「上田市教育支援プラン」の推進
- 2 安全・安心な教育環境の整備
- 3 文化遺産の保護・継承・活用
- 4 生涯学習の推進と学習環境の整備
- 5 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備

令和元年度 重点目標管理シート

| 重点目標 | 「上田市教育支援プラン」の推進 | | 部局名 | 教育委員会事務局 | 優先順位 | 1位 |
|----------------------------------|--|-----------------------|---|---|---|----|
| 総合計画における位置付け | 第5編教育 第1章次代を担う人づくり 第1節教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進 | | まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け | 戦略 4結婚・子育てしたい戦略 施策体系 ②きめ細やかな出産・子育て支援推進 ③未来に繋がる特色ある教育の推進 | | |
| 第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け | | | 上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け | | | |
| 現況・課題 | 多様で変化の激しい社会の中で子どもたちが将来自立していくためには、「自ら学び、考え、行動する力」を身につけることが重要です。核家族化や少子化の進展などにより子どもを取り巻く環境が大きく変化している中、学校、地域、家庭が連携し、子どもの教育に多くの人が携わり、地域ぐるみの教育を行うことが必要です。また、児童生徒と常に向き合っている教員の働き方改革により、学校と地域、保護者及び教育委員会が担うべき業務を見直し、質の高い授業を目指します。 | | | | | |
| 目的・効果 | 平成28年度からスタートした第2期上田市教育支援プランでは、「上田市教育大綱」の基本理念「燦(さん)と輝く上田の未来を紡(つむ)ぐ人づくり」に込められた思いを受け、確かな学力を養うこと、グローバルな能力を培うこと、ふるさと上田に学ぶことの3つの基本目標を掲げ、急速な人口減少や社会のグローバル化、地方創生への戦略化など大きな時代の転換点を迎える中で、将来の主役となる今の子どもたちを育てていくために、6つの基本施策と14の支援策を掲げ施策を推進します。 | | | | | |
| | 取組項目及び方法・手段(何をどのように) | 期間・期限(いつ・いつまでに) | 数値目標(どの水準まで) | 中間報告(目標に対する進捗状況・進捗度) | 期末報告(目標に対する達成状況・達成度) | |
| ① | ○学力の定着・向上 (1)「わかる授業」につなげる授業改善 ①ユニバーサルデザインの推進 ②学力向上委員会の運営方法見直しと充実 (2)生活・学習ノート「紡ぐ」の有効活用と次年度への準備 | (1)4月～3月 (2)4月～3月 | (1)・①ユニバーサルデザイン化の視点を生かした取り組みを進め、全校に広める。 ・②学力向上委員会の活動を発展見直し、新たに教員同士が自校の取組や課題を自由討論する場を年3回開催し自校の授業改善に役立たせる。 ・①及び②の取組成果として「授業がわかる」と回答する児童生徒の割合を平成30年度比1.5%増を目指す。 (2)作成委員会にて活用状況を検証、より有効活用が図られるよう利用方法、ノートの仕様等の見直しを行う。計画を立てて家庭学習を行う児童生徒の割合を平成30年度比3%増を目指す。 | (1)「わかる授業」につなげる授業改善 ①長野大学社会福祉学部と塩田地区4小中学校が連携し、ユニバーサルデザイン化の視点を考慮した授業を行っている。 ・公開授業20回(9月末時点) ・取組状況の全校配信 ②これまで行っていた県外視察と講演会については、今年度行わず、新たに「よくわかる楽しい授業」「迫力ある学び」に向けた授業改善のため、自由討論する場を創出する。 ・第一回開催済(7月)。第二回・第三回は10.11月開催予定。 ○「授業がわかると回答する児童生徒の割合」 ・小学生算数：前年度比0.7%増、中学生数学：同2.7%増(平成31年度全国学力・学習状況調査) (2)生活・学習ノート「紡ぐ」の検証について ・小学校12校、中学校6校を抽出しアンケート調査を実施(4月)。 今後、再度調査を実施し経過を検証する。 ・学力向上委員会小委員会の開催(全3回中1回開催) ・「計画を立てて家庭学習を行う児童生徒の割合」 小学生：前年度比7.8%増・中学生：同0.7%減(平成31年度全国学力・学習状況調査) | (1)「わかる授業」につなげる授業改善 ①長野大学社会福祉学部と塩田地区4小中学校が連携し、ユニバーサルデザイン化の視点を考慮した授業を行った。 ・公開授業33回(3月末見込) ・取組状況を「楽しい学びの通信」で全校に配信 ②これまで行っていた県外視察と講演会を見直し、新たに「よくわかる楽しい授業」「迫力ある学び」に向けた授業改善のため、自由討論する場を創出した。 ・3回開催(7月、10月、11月) ○「授業がわかると回答する児童生徒の割合」 ・小学生算数：前年度比0.7%増、中学生数学：同2.7%増(平成31年度全国学力・学習状況調査) (2)生活・学習ノート「紡ぐ」の検証について ・小学校12校、中学校6校を抽出しアンケート調査を実施(5月及び10月)。 ・学力向上委員会小委員会の開催(3回開催) ・「計画を立てて家庭学習を行う児童生徒の割合」 小学生：前年度比7.8%増・中学生：同0.7%減(平成31年度全国学力・学習状況調査) | |
| ② | ○いじめ・不登校など悩みを抱える児童生徒への支援 (1)「SOSの出し方に関する教育」の推進 (2)スクールソーシャルワーカーによる支援強化 | (1)4月～3月 (2)4月～3月 | (1)授業方法を研究し、「SOSの出し方に関する教育」を実施する中学校数3校を目指す。 (2)支援体制の強化とともに、学校訪問等による積極的な周知を行い、全校の子どもを対象とした寄り添った支援の方策を検討していく。 | (1)授業方法を研究し市内3中学校で実施予定 (2)長野県教育委員会から派遣されたスクールソーシャルワーカー2名を重点校に配置し、小中学校30校を訪問。 | (1)実施1校(予定していた2校は、新型コロナウイルスに伴う臨時休業により中止) (2)長野県教育委員会から派遣されたスクールソーシャルワーカー2名を教育相談所に配置し、小中学校のべ42校、65人の相談、支援を行った。 | |
| ③ | ○教員のICT活用指導力の向上 (1)小・中学校の各1校に教員用のタブレットPCを整備する (2)タブレットPCの活用方法、運用方法を調査研究 | (1)4月～9月 (2)10月～3月 | (1)無線Wifi環境の整備と教員に一人1台タブレットPCを配備する。 (2)タブレットPCを使用した授業の進め方の研究と、管理運用等に関する調査を行う。 | (1)小学校に関しては配備が完了しているが、中学校はバックアップの整備が遅れているため10月上旬に配備完了の見込み (2)10月以降、活用状況、運用方法の調査を行う。 | (1)機器の高騰により中学校の整備が計画より遅れ、また台数が当初より少ない整備となった。 (2)機器の操作研修等が十分できなかった。 (3)活用方法を研究する中で、児童生徒にも機器を整備したほうが効果的な授業が組まれるのではないかと意見が多くあり、次年度は菅平小中学校に児童生徒用機器を整備し効果的な授業の研究を実施する。 | |

| | | | | | |
|------|--|----------------------|--|--|--|
| ④ | ○放課後児童対策の充実 (1) 学童保育所太郎の家新築 (2) 適正な利用児童数を維持するための施設整備 | (1)4月～3月 (2)4月～3月 | (1)実施設計に基づく施設の建築 (2)放課後児童クラブの活動スペース拡充による定員増5館及び支援員の確保等による定員増3館。 | (1)9月3日に契約を締結し、現在建築中。 (2)・活動スペースの拡充（余裕教室等の活用）による増員5館106人増 ・放課後児童支援員の確保等による増員 3館135人増 | (1)令和2年2月28日竣工 (2)・活動スペースの拡充（余裕教室等の活用）による増員5館106人増 ・放課後児童支援員の確保等による増員 3館135人増 |
| ⑤ | ○教員の働き方改革の推進 (1) 教員の勤務時間の把握と適正化 | | (1)各学校の平均時間外勤務時間が月45時間以下を目指す。 (H30年12月時点、45時間未満：20校、45時間超：16校) | 7月から①45時間以下、②45～80時間、③80～100時間、④100時間超、の区分で人数調査を行い勤務時間の適正化を推進していく。 | (1)R元年12月時点、45時間未満：13校、45時間超：23校 前年度より、45時間以上の学校が増加したが、一人当たりの勤務時間は減少した。 |
| ⑥ | ○食育の推進・充実に向けた環境の整備 (1)一部変更した「今後の学校給食運営方針」の市民への説明・周知 (2)新しい学校給食施設建設用地の検討・選定 (3)「今後の学校給食運営方針」（変更後）を踏まえ新しい学校給食施設に係る整備計画の作成 | (1)4月～ (2)4月～3月 | (1)地域・学校などへの説明会を開催する。 (2)新しい学校給食施設に係る建設用地の選定及び整備計画の作成を行う。 | (1)5月から6月にかけて、「今後の学校給食運営方針」（平成31年2月改訂）の市民説明会（2会場）及び、上田地域の自校方式の小学校への保護者説明会（2校）を開催した。また、広報紙、ホームページ等による周知も行った。 (2)改築する第二学校給食センターの建設候補地として、同センターに隣接する農地を予定し、7月に、地元の染屋自治会へ事業実施に係る説明会を開催した。また、農振農用地区域に指定されている当該用地の農振除外申請を行った。 | (1)中間報告のとおり (2)建設予定地を選定し、用地取得を進めていくための不動産鑑定評価及び用地測量を実施した。 (3)庁内検討会議を11月に設置し、施設整備に関する大きな方向性について確認し、施設の設計を進めるうえでの基本的な考え方についてまとめた施設整備計画を作成した。 |
| ⑦ | ○小中学校のあり方の検討 (1)「上田市小中学校のあり方検討委員会」による小中学校のあり方に関する基本方針の策定 | (1)4月～3月 | (1)小中学校のあり方に関する基本方針を策定する。 | (1)検討委員会を2回（5月・7月、昨年度から合計4回）開催した。後期において検討委員会を4回開催（予定）し、基本方針の検討を進める。 | (1)今年度中の基本方針の策定を目指して検討委員会を6回（昨年度から合計8回）開催し、検討を進めたが、策定までには至らなかった。現在、素案の作成に向けた検討を進めており、来年度に基本方針を策定したい。 |
| 特記事項 | ○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 | | | ○取組による効果・残された課題 | |
| | ○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点 | | | | |

令和元年度 重点目標管理シート

| 重点目標 | 安全・安心な教育環境の整備 | | | 部局名 | 教育委員会事務局 | 優先順位 | 2位 |
|----------------------------------|---|-----------------|--------------------------------|---|--|------|----|
| 総合計画における位置付け | 第5編 教育 第1章 次代を担う人づくり 第1節 教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進 | | | まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け | 戦略 施策体系 | | |
| 第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け | | | | 上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け | | | |
| 現況・課題 | 令和2年度からの新学習指導要領の開始に伴う小学校高学年からの英語教育の開始と、今後の少子化の進行が明らかな状況下においては、これからの学校施設への要求内容も大きく変わることが必然であり、これらの要求に沿い、時代に即した学校施設整備を行うことが重要です。人口増加がピークであった昭和40年代・50年代に建てられた学校施設が今後耐用年数を迎えるに当たり、将来の人口減を見据える中で、計画的な施設配置・施設規模を検討する必要があります。 | | | | | | |
| 目的・効果 | 現在の学校施設配置を続けた場合、人口減少による小規模校(過小規模校)化により空き教室が増加し、非効率的な施設の維持管理を余儀なくされ、財政を圧迫する一因となります。新学習指導要領への移行や児童・生徒数の将来予測を念頭に置き、小中一貫教育の実施を含めた学校施設の再配置を検討・実施することで、児童・生徒にとって必要な学習環境が確保されるとともに、施設の維持管理経費の抑制にもつながります。 | | | | | | |
| | 取組項目及び方法・手段(何をどのように) | 期間・期限(いつ・いつまでに) | 数値目標(どの水準まで) | 中間報告(目標に対する進捗状況・進捗度) | 期末報告(目標に対する達成状況・達成度) | | |
| ① | ・市内小中学校への空調機器設置 児童生徒の熱中症対策として、空調機器が未整備の市内小中学校に空調機器を設置する。 (整備済の小中学校及び菅平小中学校を除く) | ～6月末 | 小学校24校、中学校7校への空調機器の設置完了、及び稼働開始 | ・小中学校への空調機器設置については、全国的な需要の高まりを受け、納期等の状況が厳しい中、当初目標の6月末時点で、設置率81.3%となった。 ・その後、8月22日にすべての小中学校への設置が完了し、2学期からすべての学校において、空調機器の稼働を開始した。 | ・全国的に空調機器設置事業が実施されたことにより、一部の学校で機器の納入が遅れたが、2学期からすべての学校において空調機器の稼働を開始した。 | | |
| ② | ・第五中学校改築事業(耐力度調査業務) 既存校舎の構造耐力を調査し耐力度点数を算出する。 (実施計画事業：2019年度～) | 4月～3月 | 調査業務の完了 | ・上半期において、耐力度調査業務発注に係る予備指名を実施し、指名業者選定委員会での審議が終了した。 ・予備指名に際し、今後、上田市が発注する耐力度調査の基礎となる仕様書を作成した。 ・今後、11月1日に入札実施予定。 | ・11月6日付で耐力度調査業務契約を締結した。 ・当初の予定どおり、年度内に業務が完了した。 ・今後の設計等の基礎となる地形測量業務を追加で実施した。 | | |
| ③ | ・上田市学校施設長寿命化計画[個別施設計画](素案)の作成 昨年度までに作成した学校施設カルテを基に、学校施設の老朽化度を加え、将来に渡り持続的かつ計画的な施設改修等を行うための計画(案)を作成する。 (2020年度までの継続事業) | 4月～3月 | 長寿命化計画[個別施設計画](素案)完成 | ・個別施設計画策定に必要な、直近5年間の営繕履歴の整理が終了し、建物の外観チェック(建築基準法第12条点検)の約60%について整理が終了した。 ・今後、年度内の素案作成に向け、引き続き外観チェックを行い、素案の作成を進める。 | ・計画策定に必要な建物の外観チェック(建築基準法第12条点検)については、12月中に完了した。 ・3月末までに、計画の素案の作成が終了した。 | | |
| ④ | ・学校施設の適正な営繕の実施 各学校からの営繕要望に対し、営繕実施の可否について判断の上、経費圧縮に努めながら、迅速かつ適切な事業推進を図る。 | 通年 | 営繕が必要な箇所について、年内(12月)に発注を完了する。 | ・各担当が依頼箇所を確認し、必要性の有無及びコスト面を適切に判断し、迅速な対応に努めている。 ・12月以降の修繕対応も予測されるため、予算の一部執行は1月以降に保留とする。 | ・災害による影響により入札が遅れた事案もあったが、学校からの営繕要望に対し、必要性、コスト面からの検討を加え、必要な営繕については、すべての業務を実施することができた。 ・今年度から配置された技術職員により、発注内容を精査し、適正な競争の下、経費の圧縮にも一定の成果が得られた。 | | |
| 特記事項 | ○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 | | | ○取組による効果・残された課題 ・空調機器設置事業については、今後の機器の更新計画を作成し、持続的かつ計画的な機器更新を図る必要がある。 | | | |
| | ○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点 | | | | | | |

令和元年度 重点目標管理シート

| 重点目標 | 文化遺産の保護・継承・活用 | | | 部局名 | 教育委員会事務局 | 優先順位 | 3位 |
|----------------------------------|---|------------------------------------|--|---|---|------|----|
| 総合計画における位置付け | 第6編 文化・交流・連携 第1章 多彩な文化芸術の継承と創造 第1節 文化遺産の継承と活用 | | | まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け | 戦略 3訪れたい・住みたいうえだ戦略 施策体系 ①地域資源を生かした知名度アップと交流促進 | | |
| 第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け | | | | 上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け | | | |
| 現況・課題 | 地域の歴史と文化を次世代に継承していくために、文化財への関心を高めるとともに、保存と活用を推進してその価値を高め、より魅力あるものにしていく取組が求められています。また、文化財保護法の改正に伴い、平成30年度に策定した「上田市歴史文化基本構想」をもとにしながら新たに「上田市文化財保存活用地域計画」を策定することが求められています。 | | | | | | |
| 目的・効果 | 新たに策定した「上田市歴史文化基本構想」について、地域住民や所有者を対象にした説明会を開催し、周知とともに要望や意見を集約して、「上田市文化財保存活用地域計画」の策定に向けた取組を進めます。また、史跡や建造物等の保存とともに積極的な公開や活用を推進します。さらに、子どもたちや市民向けに上田の歴史や先人・偉人の業績を紹介することにより、郷土に対する理解を深め、誇りや愛着を醸成するよう努めます。 | | | | | | |
| | 取組項目及び方法・手段（何をどのように） | 期間・期限（いつ・いつまでに） | 数値目標（どの水準まで） | 中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度） | 期末報告（目標に対する達成状況・達成度） | | |
| ① | ○「上田市文化財保存活用地域計画」の策定に向けた取り組み (1)「上田市歴史文化基本構想」の住民説明会開催 | (1) 7月～3月 | (1) 住民説明会開催（9公民館） ・歴史文化基本構想の周知 ・地域計画策定に向けて地域住民や所有者の意見集約 | (1)「上田市歴史文化基本構想」（本編）作成印刷（概要版は前年度完成済） | (1)「上田市歴史文化基本構想」冊子印刷完了 市内公民館で住民説明会を開催（以下のとおり） 地域計画策定に向けて地域住民や所有者の意見聴取 2/5 丸子公民館、2/7 真田中央公民館 2/12 中央公民館、2/13 西部公民館 2/18 上野が丘公民館、2/21 塩田公民館 2/25 川西公民館、2/27 城南公民館 ※武石公民館（延期） | | |
| ② | ○史跡等整備の推進と文化財の活用 (1) 史跡等の保存と整備 (2) 文化財の積極的な活用 ①文化財de文化祭の開催 ②日本遺産への取組 | (1) 4月～2月 (2) ①7月・11月 ②5月～3月 | (1) 史跡信濃国分寺跡の公有化事業（1件・445.41㎡） (2) ①文化財de文化祭の実施（2回） ②日本遺産 ・認定→協議会の設立、事業着手 ・落選→認定に向けた取組 | (1) 公有化予定地の所有者の意向変化。公有化取り止め (2) ①文化財de文化祭 妙見寺でギターリサイタル開催（9月） 別所神社でシェイクスピア英語劇開催（9月） ②日本遺産 認定先進地の視察、認定に向けてストーリーの検討 | (1) 公有化予定地の所有者の意向変化、公有化取り止め (2) ①文化財de文化祭は、9月に開催（2回） ②日本遺産は1月に認定申請書を文化庁に提出 タイトルは「レイラインがつなぐ『太陽と大地の聖地』 ～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～」 | | |
| ③ | ○史跡上田城跡整備事業の推進 (1) 史跡上田城跡整備に向けた検討 | (1) 5月～2月 | (1) 史跡上田城跡整備専門家会議の開催（1回以上） | (1) 専門家会議の設置及び開催に向けて準備 | (1) 設置要領の制定 委員の選定完了、内諾を得た。 3月の開催に向けて準備を進めていたが開催見送り (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため) | | |
| ④ | ○郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出 (1) 郷土ゆかりの先人・偉人の顕彰事業 (2) 郷土の歴史、文化、人物等をテーマとした展覧会や講座等の開催 | (1) 4月～3月 (2) 4月～3月 | (1) 郷土の人物紹介パネルを製作（50人）、公民館等で巡回掲示 (2) 市立博物館及び信濃国分寺資料館における企画展の開催（6回以上）、体験教室講座等の開催（30回以上） | (1) 先人紹介パネルの作成に向けて、原稿の作成「ふるさと信州上田先人館」事業の検討・準備 (2) 市立博物館…企画展の開催（1回） 講座等の開催（7回） 信濃国分寺資料館…企画展の開催（2回） 講座等の開催（8回） | (1) 先人紹介パネル作成完了（50人） 「ふるさと信州上田先人館」準備（次年度開館） (2) 市立博物館…企画展の開催（3回） 講座等の開催（11回） 信濃国分寺資料館…企画展の開催（3回） 講座等の開催（20回） | | |
| 特記事項 | ○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 | | | ○取組による効果・残された課題 | | | |
| | ○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点 | | | | | | |

| 重点目標 | 生涯学習の推進と学習環境の整備 | | 部局名 | 教育委員会事務局 | 優先順位 | 4位 |
|----------------------------------|--|----------------------------------|---|--|--|----|
| 総合計画における位置付け | 第5編 教育 第1章 次代を担う人づくり 第2章 新しい時代を拓く生涯学習環境の整備 第1節 教育環境の整備と地域ぐるみの教育 第1節 生涯学習の推進と学習環境の整備 第1編 自治・協働・行政 第2章 すべての人の人権が尊重されるまちづくり 第1節 一人ひとりの人権が尊重される社会の実現 | | まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け 戦略 2 結婚・子育てしたい 施策体系 ③ 未来につながる特色ある教育の推進 | | | |
| 第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け | | | 上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け | | | |
| 現況・課題 | 全小中学校でコミュニティスクールの取組が行われていますが、今後は学校の実情や地域の特徴を生かしながら、地域と学校が連携・協働していく取組が継続したものとなるよう、持続可能な体制を整備していく必要があります。コーディネーターや地域で学校を支えていただいているボランティアの人数が徐々に増えてきています。今後ますます、コーディネーターやボランティア同士を繋ぐ統括コーディネーターの存在が益々重要になります。人権同和教育においては、平成25年2月に同和問題に関わる差別事象が発生し、その後も相談案件が生じていることから、今後、このような差別が起きないよう人権同和教育と啓発を推進していく必要があります。「人生100年時代」に向け、シニア層の学びの拡充を図るとともに、実体験の不足しがちな子どもたちのため地域の資源（自然、歴史、人等）生かし自然体験・社会体験の機会を提供します。また、上田市から始まり県内外に影響を及ぼした児童自由画教育運動、農民美術運動及び上田自由大学運動創始から約100年になることを記念し、社会教育機関である公民館、図書館及び博物館が連携し、3つの社会教育運動の意義を顕彰し、周知・発信することにより市民の自発的な学習活動を促進する機会にすることが必要です。 | | | | | |
| 目的・効果 | 豊かな生涯学習社会の実現を目指し、新たに策定した「第二次上田市生涯学習基本構想」に基づき、生涯学習機会や施設整備をはじめとする生涯学習環境の充実を図るとともに、地域とともにある学校づくりの取組を通じ、学校の負担を軽減し、地域ぐるみで子どもたちを育てていきます。上田市人権施策基本方針に基づき、学校、地域等における人権同和教育と啓発を通じ、全ての人の人権が尊重される社会の実現を目指します。公民館事業の充実、高齢者の学びの拡充及び上田自由大学運動等の顕彰・周知により、地域の教育力の向上、市民の自発的な学習活動の促進が期待されます。 | | | | | |
| | 取組項目及び方法・手段（何をどのように） | 期間・期限（いつ・いつまでに） | 数値目標（どの水準まで） | 中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度） | 期末報告（目標に対する達成状況・達成度） | |
| ① | ○地域とともにある学校づくりの充実 (1)市HPの整備等で「活動の見える化」を推進 (2)コーディネーター等のスキルアップのための研修会・先進地視察の実施。人材発掘・連携につながる情報交換会の実施 | (1)4月～3月 (2)4月～3月 | (1)上田市の特色ある各校の取組の紹介コーナーを開設 (2)学校支援プロジェクト会議の企画で研修会・情報交換会等を開催（3回） | (1)ボランティアハンドブック改正に伴い、特徴的取組の紹介をHPのコンテンツとしても掲載 (2)9/12県の研修会へ参加。講演会を11/11に実施。交流会（情報交換会）の開催に向けた準備 | (1)交流会（リレートーク）で発表した団体等のボランティア活動事例等を紹介したリーフレット作成。またHPのコンテンツとしても掲載 (2)交流会（情報交換会）開催（1月） | |
| ② | ○人権同和教育・啓発の推進 (1)上田市人権施策基本方針に基づく人権同和教育の推進 (2)広報やアンケートに力を入れ、市民ニーズに合った講演会・研修会等の事業の実施 | (1)4月～3月 (2)4月～3月 | (1)家庭、地域、企業、職員に対する人権同和教育・啓発の推進 (2)各種人権啓発推進団体が行う市民の人権意識向上のための事業の推進（参加者2,800人） | (1)家庭、地域、企業、各小中学校において様々な機会を捉え人権同和教育・啓発 (2)各種団体の研修に、「市民の集い」を含め1,765人が参加「人権啓発担当者研修会」「人権展」等の準備 | (1)・ほぼ全ての自治会で懇談会開催 ・中学校区ごとにブロック研修会開催 ・企業において講演会等を開催 (2)「人権啓発担当者研修会」「人権展」「市民の集い」を含めた各種団体の研修会等への参加者2,976人 | |
| ③ | ○青少年の健やかな成長を支援する取組の充実 (1)生きる力を育む体験活動、集団遊び・集団生活の機会提供 (2)社会変化に対応した健全育成を支える環境づくり | (1)4月～3月 (2)4月～3月 | (1)野外体験モデル事業実施（4回）体験活動補助金交付（60育成会） (2)インターネット・スマホ適正利用啓発（リーフレット発行2万部、アンケート活用） | (1)千曲川の川遊び体験を実施（7月）参加者110人 ふるさとキャンプin丸子（8月）参加者50人 64育成会に体験活動補助金を交付 (2)リーフレット内容について検討 | (1)・千曲川の川遊び体験を実施（7月）参加者110人 ・ふるさとキャンプin丸子（8月）参加者50人 ・親子でちょこっとアウトドア体験実施（11月）参加者親子29人 ・冬の自然体験教室実施（2月）参加者親子22人 体験活動補助金交付（計66育成会） (2)リーフレット16,500部作成、小中学生（保護者）に配布（2月） | |
| ④ | ○公民館事業の充実 (1)人生100年時代に向けたシニア世代の学びの拡充 (2)地域の資源（自然、歴史、人等）を生かし子どもたちの自然体験・社会体験の機会の提供と充実 (3)公民館事業の情報発信の拡充 | (1)4月～3月 (2)4月～3月 (3)4月～3月 | (1)各館の高齢者向け講座充実 (2)各館の事業充実（館長会での情報交換） (3)各公民館だよりとHPの充実のための研修2回（主事会）及びSNSによる発信を1館以上で実施 | (1)県内他市を参考に「ことぶき大学」等の高齢者向け講座充実 (2)自然体験・社会体験講座・イベントを実施 (3)職員向けHP・公民館だよりの作成研修会実施（10月、1月） フェイスブックを活用した情報発信（西部、塩田、真田中央、武石の4館） | (1)県内他市を参考に「ことぶき大学」等の高齢者向け講座を充実 (2)児童自由画運動100周年にあわせ「100周年児童自由画展」と「山本鼎」の講演会を開催 (3)職員向けHP・公民館だよりの作成研修会実施（10月、1月） フェイスブックを活用した情報発信（中央、西部、塩田、真田中央、武石の5館） | |
| ⑤ | ○図書館サービスの充実 (1)「上田市子ども読書活動推進計画」の見直し (2)職員の資質向上 (3)貴重資料などの整備 | (1)4月～3月 (2)4月～3月 (3)4月～3月 | (1)教育委員会と関係部局と連携し計画を立案し、3月までに図書館協議会に諮問 (2)各種研修会への参加と情報の共有 (3)未整理資料の目録作成と資料登録 | (1)関係課へ提起するため、現上田市子ども読書活動推進計画を検証 (2)県立図書館主催等の研修会へ参加。研修結果を職員全員で共有 (3)各館ごとに計画に沿った貴重資料整備 | (1)市内4図書館の現状と課題を検証（諮問には至らなかった） (2)各種研修会への参加後、研修結果を職員全員で共有 研修会6回、延49人 (3)各館の貴重資料の整理状況 ・上田図書館 1,400件（内目録作成300件） ・上田情報ライブラリー 資料登録済 2,511件 ・丸子図書館 目録作成 4,042件 | |
| 特記事項 | ○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 | | | ○取組による効果・残された課題 | | |
| | ○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点 | | | | | |

令和元年度 重点目標管理シート

| 重点目標 | 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備 | | 部局名 | 教育委員会事務局 | 優先順位 | 5位 |
|----------------------------------|--|-----------------|--|---|--|----|
| 総合計画における位置付け | 第5編 教育 第2章 新しい時代を拓く生涯学習環境の整備 第2節 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備 | | まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け | 戦略:人・地域の輝き戦略 施策体系:②健康寿命を延伸する施策の推進 | | |
| 第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け | スポーツ施設整備を進めるにあたり、公共施設マネジメント基本方針と整合を図り、今後の方向性・方針等を検討する。 | | 上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け | | | |
| 現況・課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルが変化し、健康づくりへの関心が高まる中、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、誰もがいつまでも気軽にスポーツに親しめるまちづくりを進めていく必要があります。 ・多様なスポーツ・レクリエーションや競技スポーツ振興を図るため、スポーツ施設の整備を計画的に進める必要があります。 ・今後開催される国際スポーツ大会に向け、各国ナショナルチームの事前合宿や高地トレーニングの適地として、菅平高原への誘致を積極的に進める必要があります。 ・上田市から世界の舞台で活躍する選手が育つことを視野に入れ、優れた競技者を発掘し、応援する体制づくりが重要です。 | | | | | |
| 目的・効果 | 「上田市スポーツ振興計画」に基づき、体力向上や健康づくりの機会を拡大するとともにスポーツ環境の整備を促進し、生涯スポーツ社会の実現を目指します。 | | | | | |
| | 取組項目及び方法・手段（何をどのように） | 期間・期限（いつ・いつまでに） | 数値目標（どの水準まで） | 中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度） | 期末報告（目標に対する達成状況・達成度） | |
| ① | ○(仮)第2次上田市スポーツ振興計画の検討 (1)上田市スポーツ推進審議会への諮問 (2)同審議会での検討 | 令和元年度中 | (1)計画検討に向けた審議委員の委嘱と審議会への諮問 (2)より良い計画策定に向けた審議会会議の開催（内容検討、勉強会、スポーツに関する市民アンケート検討等）【5回】 | (1)計画検討のためスポーツ推進審議会委員（10名、任期2年）の委嘱と諮問 (2)会議2回開催、このうち1回は会議内で勉強会（講義聴講及び意見交換）を実施 | (1)計画検討のためスポーツ推進審議会委員（10名、任期2年）の委嘱と諮問 (2)より良い計画策定に向けた審議会会議の開催（計画概要やスポーツに関する市民アンケートの検討）【5回】、会議内での勉強会（第2期スポーツ基本計画、障がい者スポーツ）【2回】 | |
| ② | ○スポーツ施設整備の推進 (1)上田市スポーツ施設整備計画に基づく施設整備 (2)施設修繕計画の作成と計画的整備 | 令和元年度中 | (1)教育施設整備室（新設）との連携による施設整備計画に基づいた施設整備の取組（テニスコート、自然運動公園総合体育館等） (2)施設修繕計画（管理事務所別）の検討とこれに基づく計画的修繕 | (1)自然運動公園総合体育館では、来年度の工事に向け設計業者が決定するなど、計画に基づく整備を進めている。 (2)管理事務所ごとに修繕計画を作成中 | (1)自然運動公園総合体育館の工事に向けた実施設計が完了、新テニスコート整備については、スポーツ推進審議会への諮問、審議会からの答申を踏まえ、新テニスコート整備基本構想を策定 (2)管理事務所ごとに修繕計画を作成し、これに基づいた修繕を実施 | |
| ③ | ○生涯スポーツ振興、競技力向上、人材育成とスポーツを支える地域づくり (1)魅力あるスポーツイベントとスポーツに触れる機会の充実 (2)ラグビー普及啓発事業の実施 (3)総合型地域スポーツクラブの育成促進 (4)競技力の向上 | 令和元年度中 | (1)体力向上を図る各種大会【20回】 夢を持つ事の大切さを伝える事業（夢の教室）【小学校10校】 「見る」スポーツの機会充実（Vリーグ開催支援）【随時】 (2)ラグビーの市内定着を図る取組 指導者講習・体験会【計10回】 (3)総合型地域スポーツクラブの育成を促進する連携事業【10回】 (4)競技力向上を図る全国大会等出場奨励金の交付【30件】 | (1)体力向上を図る各種大会【9回】 上田陸上カーニバル、市民水泳記録会等 夢を持つ事の大切さを伝える事業【小学校3校】 南・傍陽・西内小学校 「みる」スポーツの機会充実（Vリーグ開催支援）【随時】 広報（広報誌掲載、チラシ等配布）、会場利用支援 (2)ラグビーの市内定着を図る取組 体験会【5回】 神科小学校4回、芙蓉保育園1回 (3)総合型地域SCの育成を促進する連携事業【8回】 健康フェア2回、モールウォーキング6回 (4)競技力向上を図る全国大会等出場奨励金の交付【18件】 インターハイほか全国大会 | (1)体力向上を図る各種大会【19回】 上田陸上カーニバル、市民水泳記録会等 （台風19号により古戦場ハーフマラソン大会中止） 夢を持つ事の大切さを伝える事業【小学校10校】 「みる」スポーツの機会充実（Vリーグ開催支援）【随時】 広報（広報誌掲載、チラシ等配布）、会場利用支援 (2)ラグビーの市内定着を図る取組 体験会等【34回】 小学校や保育園での体験会、スポーツ推進委員への指導講習 (3)総合型地域SCの育成を促進する連携事業【14回】 健康フェア2回、モールウォーキング12回 (4)競技力向上を図る全国大会等出場奨励金の交付【38件】 インターハイほか全国大会 | |
| 特記事項 | ○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 | | | ○取組による効果・残された課題 上田市スポーツ振興計画に基づき振興を図るには、ソフト・ハード両面で歩調を合わせ推進する必要がある。 ①(仮)第2次上田市スポーツ振興計画の検討 ※計画名称を「第二次上田市スポーツ推進計画」に決定 5回の会議と2回の勉強会を通し審議会内の情報共有・知識向上を図った。長野国体を踏まえた計画をR2年度内に策定する。 ②スポーツ施設整備の推進 基本構想策定により新テニスコートの整備方針が決定。R2年度は自然運動公園総合体育館の本格工事に着手する。 ③生涯スポーツ振興、競技力向上、人材育成とスポーツを支える地域づくり ラグビー体験会・総合型地域SC事業は目標を上回り実施。引続き「みる」スポーツも合わせ生涯スポーツの振興を図る。 | | |
| | ○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点 | | | | | |